

特集

「子ども買春」「子どもポルノ」とは？
日常にあふれる『性』と子どもの権利を考える

～ 12月17日から横浜で開催される「第2回子どもの商業的性的搾取
に反対する世界会議」に取り組むNGOと子どもたち～

17-20 December 2001



(写真のパネルと解説文は国際子ども権利センターが作成したものです。)

「子どもを買うおとなの天使の顔と悪魔の顔」

子ども買春する人はどんなひとなのでしょう？特別な人？
いいえ。そのほとんどは、自分の国では、会社員や教師、医者など普通に働いているおとなたちです。そして家庭では子どもたちと遊ぶような「良いお父さん」であることさえあります。そんな普通の人が、「旅先ならば……」と子ども買春を行っています。子ども買春をする人の多くは、どこにでもいる普通のおとなです。

が予定されています。また、第1回会議と同様、各国政府関係者、国際機関、NGOが同等の立場で参加する他、関連する民間セクター（観光、インターネット業界、マスコミなど）にも参加を呼びかけます。そして、日本を含む各国から合計約100名の子どもたちも参加をして、当事者である子どもの立場で、問題の予防や解決について討議します。日本からは33名の子どもが正式な参加者として参加します。神奈川県の子も若者代表も6名参加します。

「第2回子どもの商業的性的搾取に反対する世界会議（通称：横浜会議）」が、日本政府、UNICEF（国連児童基金）、ECPAT（エクパット＝子ども買春、子どもポルノ、性的目的での子どもの売買根絶キャンペーン）及び子どもの権利条約NGOグループによる共催で、今年の12月17日（月）から20日（木）まで、横浜（パシフィコ横浜会議センター）で開催されます。

今回の特集では、NGOの立場からこの会議に積極的な関わりをしている「国際子ども権利センター」の協力を得て、『横浜会議』に至る経緯と準備の様子をお伝えします。

国際子ども権利センターは、地球に生きる子どもたちの権利を実現するために、「子どもの権利条約」「子ども協力」「開発教育」の3つの柱を中心に市民参加による国際協力活動を行うNGOで、横浜・東京・大阪に活動拠点を置いています。

第1回子どもの商業的性的搾取に反対する世界会議は、96年8月、スウェーデンのストックホルムで、122ヶ国、約20の国際機関、NGO関係者等、約2000人が出席しました。この会議では、買春男性の送り出し国であり、また、子どもポルノの発信地・輸出されている子どもポルノの80%が日本製である日本は、海外の参加者から厳しく批判されました。その後、99年に日本でも「子ども買春・子どもポルノ禁止法」が制定されましたが、日本国内でもアジアでも『子どもを買う』男性の数は後を絶たず、子どもポルノに利用されつづけているのが現実です。

第2回世界会議は、この第1回会議で採択された「宣言」と「行動アジェンダ」のこれまでの実施状況を評価するとともに、「子ども買春」、「子どもポルノ」など、子どもに対する商業的性的搾取を根絶するための今後の取り組みについて話し合います。主要テーマとしては「子どもポルノ」、「子どもの性的搾取からの予防、保護及び回復」、「子どものトラフィッキング（人身売買）」、「民間セクターの役割と関与」、「立法と法執行」及び「性的搾取者」

子ども買春・子どもポルノの犠牲となっている子どもはアジアでは100万人といわれているが、これは世界のあらゆる地域において存在している。

フィリピンやタイでの法律の厳罰化(終身刑・死刑になる場合もある)により、買春者はカンボジア、ラオス、ベトナムへと流入する傾向にある。

以前は日本人中年男性の買春ツアーなどが多かったのに比べ、最近は個人でいく買春者や若い日本人も多い。

主にアジアで加害者となっている日本人男性は、旅行者やビジネスマンなど、ごく普通の男性。現状では逮捕されるのは氷山の一角で、例えば95年～97年の3年間にフィリピンで子どもへの性虐待で逮捕された外国人は22名、その内日本人は最多の6名。

子ども買春・子どもポルノの実態

(まとめ：国際子ども権利センター)

子どもは買春やポルノの性暴力によって肉体的精神的に深い傷を負い、自傷行為や自殺に追い込まれたり、性病やエイズをうつされて死にいたるケースも少なくない。

買われる子どもは10代の子どももいれば、幼児もいる。ヨーロッパの子どもポルノの大規模な組織が摘発されたとき押収された子どもポルノには18ヶ月にしか満たない子どももいた。

アジアでは農村から仲介業者や犯罪組織が少女たちをだましたり、家族の借金のかたに売春を強要されていることが多い。組織的犯罪グループによって周辺国へ売られる子どもたちも多い(例えばインドシナ半島地域や南アジア地域の中で)。こういう場合、言葉もわからず、逃げられない。アジアから日本へ連れてこられ、奴隷状態で売春を強要されている子どもたちもいる。

国際子ども権利センターでは、昨年からセミナーやワークショップを開催し、この横浜会議の準備を重ねてきました。現在、横浜会議のサイドイベントとして、性情報が氾濫し買春が容認されている社会を検証するための視察ツアーと、子ども・若者がアクションプランをつくるワークショップを企画しています。

横浜会議

横浜会議のユース代表に選ばれた佐藤信一さんからは、この問題にかかわるようになったある出来事と視察ツアーに寄せる彼の気持ちを話してもらいました。

佐藤信一さん(横浜市 22歳)

私は、大学生の時にタイを旅行して初めてこの問題に出会いました。生まれて初めての海外旅行で宮殿や遺跡に感動していた私に飛行機の中で知り合った日本人男性旅行者から、あるところに連れて行きたいと提案されました。タクシーから降りると、そこはタイの中でも有名な歓楽街の一つであるパッポン通りで、両側には風俗店がぎっしりと詰まっていました。一軒の風俗店に連れていかれた私の目に飛び込んできた光景は、私を絶句させました。下着同然の衣装を着た女性たちが、ステージ上で踊ったり、客に性的サービスをしたっていました。さらに二階では、とても言葉では表現できないショーが繰り広げられていました。そして気が動転していた私はさらに打ちのめされるような状況に気がつきました。冷静さを取り戻そうと飲み物を飲んでいたら私の横に座っていた女性が、明らかに子どもだったので。彼女は他の女性と同じ格好をしていたので、その従業員であることは確かでした。年齢を聞かれ21歳と答えた彼女はどう見ても14～15歳にしか見えませんでした。しかし、ぎこちない笑顔だった彼女がアニメのキャラクターの入った私の時計を、本当にあどけない子どもらしい笑顔で眺めているのを見た時、私にはどうしても彼女が偽りの年齢を言ったとしか思えませんでした。旅行中、私は彼女のことで頭がいっぱいでした。なぜ子どもである彼女が深夜に下着同然の衣装を着て、見ず知らずの



男性を相手に性的なサービスをしなければならないのか。それまで私が抱いていた14～15歳の子どもに対する常識と、彼女の姿は全く相反するものでした。

その後日本に帰った私は、ユニセフのホームページ等によって改めて子どもの商業的性搾取という社会問題を知り、それは今日タイだけでなく多くの国々において深刻化しており、まさしく地球規模の問題として存在していることを知りました。さらに、子ども買春が子供たちに与える身体的・精神的影響は重大であることや、日本人旅行者も子どもを買う側として、この問題の肥大化を助長させている事実も知りました。旅行中ずっと私に付きまとっていたあの漠然とした苛立ちや不快感は、はつきりこの問題に向けられ、既に被害にあった子ども、今現在被害にあっている子ども、これから被害に遭う可能性のある子どもたちに対して、自分には何が出来るのかを強く考えるようになりました。そして、私はその第一歩として、大学の卒業論文でこの問題をテーマに選びました。

【川崎セミナーについて】 それからしばらくして、ユニセフのホームページで、横浜会議に参加する子どもと若者の代表者を定める合宿が川崎で開かれることを知り、参加しました。全国から集まった110人の12歳～25歳の参加者達は、皆この問題に対して強く関心を持っていて、とても刺激を受けました。この合宿で僕が疑問に感じたのは、参加者のかなりの割合が女性だったということです。女性がこの問題に果たす役割はもちろんととても重要だと思いますが、子ども買春・子どもポルノの加害者は男性であるため、いくら周りの問題(法的整備等)が解決した

としても、加害者である男性の意識が変わらない事には本当の廃絶は不可能だと思います。そして、男性たちの意識を変えることは、やはり同じ男性に課せられた使命だと思うのです。だからこそ、もっと多くの男性が廃絶に向けた運動に加わることが必要だと考えます。私は、12月の横浜会議に海外に多くの加害者を送り出している日本の代表として参加し、何ができるのか考えてみたいと思います。

【視察ツアーについて】 私は現在、川崎での合宿をきっかけに国際子ども権利センターの活動に参加しています。国際子ども権利センターでは、横浜会議に向けて連続セミナーを開いてきましたが、横浜会議期間中には、海外からの参加者をゲストに迎えて「視察ツアー」を行うことを計画しています。その内容は、横浜黄金町の風俗店街をはじめ、町に氾濫している性産業をゲストと共に視察・検証し、意見交換することを目的としています。私たちがこのような視察ツアーを計画するに至った背景には、現在の日本の社会環境では、子ども買春・子どもポルノの新たな被害者・加害者を生み出す危険性は高く、この現状を認識し、広く知らせていく事が世界の子どもの買春・子どもポルノを無くしていくために必要なことだという強い思いがあります。

視察ツアーの担当になった私は、一度自分自身で黄金町を歩いてみようと思いたち、先日生まれて初めて黄金町に足を運んでみました。風俗店街といえばタイで行ったパッポン通りしか知らないのと同じよ

うな情景を予想して行きました。つまり、風俗店街は普通の市民生活とは隔離された、ある種異様な熱気を放ったところというイメージでした。しかし、私が黄金町で見た現実とは全く異なるものでした。異様な熱気を放っているところかそれは恐ろしいくらい町の風景に馴染んでいたのです。風俗店の隣にはごく普通のお店が立ち、通りでは市民がふつうに歩いています。確かに裏路地(通称:親不孝通り)には、風俗店ばかりが並んでいて、人通り先少ないけれど、そこから数メートルも離れていない伊勢崎町モールという商店街では、ランドセルを背負った子どもたちや制服を着た中高生たちが歩いていました。さらに驚いたのは近くの書店に入ると、書籍の半分以上がポルノ関係だったのですが、小学生ぐらいの子どもを連れた母親が平然とその店に入って来たことです。それには驚いたというよりも先につけに取られました。生まれも育ちも横浜でありながら、今まで黄金町のような所があることを全く知らなかったことにも大きな衝撃を受けました。でも私はこのような町は性産業が氾濫する今の日本社会において決して例外ではないと思います。『性』が町に風俗店として多数存在しているだけでなく市民の生活の中に無意識に氾濫していくことは、悲しいことであり絶対になくしていく必要があります。その為にも、様々な国で活動している海外のゲストと共に直接視察し、議論することはとても有意義なことだと強く考えています。

横浜会議の代表に選ばれた子ども・ユースは、北は北海道から南は九州まで全国にいます。兄弟で代表に選ばれた熊本の中学生と神奈川から参加する高校生二人に、会議に向けての抱負を語ってもらいました。



田代竜太郎くん(熊本 中学2年生)「僕は、日本の中学生が子どもの商業的性的搾取についてどのように思っているかを知るため、弟と協力して、学校でアンケート調査をすることにしました。横浜会議では、アンケートの結果を参考にし、日本の中学生の意見を発表するつもりです。日本の中学生がこのアンケートを機に、この問題にもっと関心を持ってくれれば良いと思います。」



田代準之介くん(熊本 中学1年生)「僕は12月の横浜会議で、今までの勉強のなかで感じたことを、中学一年生レベルの意見として発表していきたいと思います。またこの会議では子どもの商業的性的搾取についてのいろいろな人の考えを聞き、意見を交換することによって、自分の視野を広げていきたいと思っています。」



三枝奈津子さん(神奈川県川崎市 高校3年生)「私は将来国際公務員になって国際的な場で働き、色々な人とふれあいたいという漠然とした夢を持っていました。その為の第一歩という気持ちでユニセフの川崎セミナーに参加しました。しかし、子ども労働や商業的性的搾取の問題をそれまであまり現実的に考えた事が無かった私にはその衝撃的な事実を目を背けたくなりました。私と同世代の子どもが、生まれてきた国や環境が違うということだけで辛い生活を送っているという事、そしてそれが私の生活に無関係ではない事を知り、この現実から逃げてはいけなかったと思いました。セミナーから帰ってきてからユニセフのホームページなどを利用して関連記事をコピーして新聞を作ったり、ILOのシンポジウムに参加し、そこで買った子ども労働のビデオなどを学校で紹介したりと、とにかくこの現状をたくさんの人に知ってもらいたいと活動を始めました。横浜会議まであと2ヶ月あるのでこれまで以上に多くの人に関心を持ってもらえるよう活動を続け、一時的なもので終わらせない為に、そして私の学校からは一人も買春の加害者を出さないよう努めて行きたいです。」



武田明恵さん(神奈川県横浜市 高校2年生)「シーセック(CSEC:子どもの商業的性的搾取)は根深い問題です。日本においては、街では目をそらしたくなるようなチラシ、マンガ、雑誌があふれ、知らない男の人に「いくら?」と声を掛けられたり、体を触られたりします。それが、国内ではおさまらず、海外に子どもを性的にお金で買いに行く大人がいると思うと許せません。当事者である子どもの参加が実現した今、子どもとしてできる事を実践します。みんなで協力してよりよい世界を作ります。絶対、必ずよりよくできるはず。この問題について、これからもっと広く意見を聞き、会議に反映させたいです。今までを反省し、自分の事として考え、みんなでこれからの世界に活かせる会議にしたいです。この問題は、政府や国際機関だけでは解決できません。」

NGO、広い年齢層の人々、市民社会の協力、意識改革があってこそ解決すると思います。私はシーセック撲滅まで絶対に諦めません。一時的、暫定的な考えではなく、地球がある限り、これらをなくすために老若男女、みんなの力でこの世界を変えてみせます。」

国際子ども権利センターでは、横浜会議に向けて、ボランティアと支援者を募集しています。表紙写真のパネルも貸出し中。詳しくは、FAX 045-912-7125、Eメール jjrc@jca.apc.orgまで。HPアドレス <http://www.jca.apc.org/jjrc>

今回の特集は、国際子ども権利センター(甲斐田さん、本田さん)のご協力により制作いたしました。

かながわ民際協力基金

「日本語を母語としない人たち」を対象にした 高校進学ガイダンスなどに

かながわ民際協力基金から、2001年度上半期分として、次の2つの事業に対する助成が決まりました。

「日本語を母語としない人たちのための」高校進学ガイダンス

団体 多文化共生教育ネットワークかながわ
(代表：高橋徹さん)

区分 国内協力事業

助成額 550,000円



2000年10月、いちょう団地にて

ニューカマーの子どもたちの高校進学について、入試の方法・学校の選択・学習の方法・資金・入学後の生活などを翻訳資料を用い、通訳を介して相談会を実施するプロジェクトです。

地域で活動するボランティアグループを中心に、ボランティアとして高校・中学教員などが関わっています。かつてガイダンスを受けていた子どもたちが、高校生や大学生となり、通訳やアドバイザーとして参加し、

活躍しており、2001年10月及び2002年9月に県内3ヶ所（横浜県民センター、いちょう団地、横内団地）において、ガイダンスを実施します。県内在住の中学生や、すでに中学を卒業して入国し、高校進学を希望している人たちに対し、進学相談も行います。

ガイダンスの際に、10言語（中国語、英語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、インドネシア語、韓国朝鮮語、ベトナム語、カンボジア語、ラオス語）の翻訳を付け、全面的に改訂され、内容も充実された「高校進学ガイドブック」を配布します。

インドシナ難民定住者の自立促進に向けた相談活動

団体 特定非営利活動法人
神奈川県インドシナ難民定住援助協会
(会長：桜井ひろ子さん)

区分 国内協力事業

助成額 780,000円

インドシナ難民定住者に対し、学校、職場、家庭、事故、身分資格等、

日常生活で起こるさまざまな問題について、相談に応じるとともに、法律的な問題を解決するために法律相談会を開くプロジェクトです。その際に、必要があれば、関係機関に付き添い、書類手続きや通訳の補助を行います。

日本が受け入れを行ってから21年以上経とうとしていますが、インドシナ難民定住者は、今なお、その日常生活で起こる法律に関わる問題を的確に処理し、解決できる人が少ないのが現実です。

そんな定住者のために法律相談会を開き、専門家（弁護士）から問題解決のアドバイスを母国語の通訳付きで受けることで、定住者自身が問題解決ができる仕組み作りを進めています。

今回が2回目の助成となります。

入賞作品が決まりました！

国際交流・国際協力
ポスター・作文コンテスト

9月14日にポスター審査会(応募1,438点)、9月27日に作文審査会(応募460点)を開催し、受賞者が決定しました。

なお、表彰式、作品展示は次のとおりです。

表彰式 12月8日(土)午前
あーだ 355号 プラザホール(2階)
展示 12月8日(土)~16日(日)
あーだ 355号 企画展示室(3階)

ポスターコンテスト優秀

露木 奈津美(平塚市立中原小学校)
塩ノ谷 佳奈(横浜市立荏田東第一小学校)
宮坂 柚里(厚木市立妻田小学校)
大居 由香(平塚市立岡崎小学校)
古川 萌(平塚市立崇善小学校)
柳川 友美(平塚市立みずほ小学校)
武井 美奈(厚木市立南毛利中学校)
山田 友理(平塚市立大住中学校)
笹沼 美由紀(厚木市立厚木中学校)

作文コンテスト優秀

加藤 あみ(厚木市立森の里中学校)
古賀 麻子(平塚市立中原中学校)
安 彰柱(平塚市立中原中学校)
池田 恵(厚木市立東名中学校)

敬称略

第6回 草の根国際協力応援バザー開催

日時：12月2日(日) 11:00~13:00

場所：あーだ 355号 1階 会議室

神奈川県国際交流協会では、今年もNGO(市民による国際協力組織)の活動支援のためのバザーを開催します。売上げは、すべて「かながわ民際協力基金」への寄付金とし、NGO活動への助成のために使わせていただきます。

このバザーには、毎年多くの企業や一般の方々から、食品、食器、雑貨などの品物が寄せられ、昨年の売上額は約50万円にもなりました。入場は無料です。皆さまのご来場をお待ちしています。

●バザー用品の提供をお願いします

今回のバザーで販売する物品の寄付を募集しています。食品(保存のきくもの)、楽器、玩具、雑貨など。

品物は、11月25日(日)までに、神奈川県国際交流協会事務局まで持参、又は宅配便(恐れ入りますが、送料のご負担をお願いします)でお届けください。

なお、古着・古本は受け付けていませんので、ご了承ください。

●ボランティア募集中！

神奈川県国際交流協会では、品物の仕分け・値札付け(11月27日~12月1日、2時間以上お手伝いいただける方)や、当日の販売(12月2日10:00~15:00)のボランティアを募集しています。ご協力をお願いします。

問い合わせ：民際協力課

「はじめて習う外国語講座」受講者募集のご案内

はじめて習う インドネシア語講座

期 間: 12月11日～3月12日
曜 日: 毎週火曜日(ただし、12月25日、
1月1日は休講)
時 間: 18:30～20:00
対 象: はじめてインドネシア語を習う方
講 師: 美野幸枝さん
(アジア・アフリカ 語学院講師)

インドネシア語はローマ字表記で、発音も日本語と似ていて、初めて学習する方にも親しみやすい言語です。

今回の講座では、発音と基礎文型を中心に簡単な会話ができるようになることを目標に、文化事情も併せて学習していきます。

共通事項

講義数: 全12回(週1回、90分)
費 用: 受講料 26,250円
(テキスト代込み)
協会年会費 3,000円
(会員の方は不要)
教 室: あーさ 355 1階・研修室
(JR根岸線「本郷台」駅徒歩3分)
定 員: 15名(先着申込み順)
最少催行人数: 7名
(申込者が6名以下の場合、講座を開催せずにお支払いいただいた代金を払い戻しいたします。)
申込み: 電話(045-896-2626)
FAX(045-896-2945)
Eメール(kikaku@k-i-a.or.jp)
のいずれかで 希望講座、お名前、ご住所 連絡先(電話/FAX/メールアドレス)を語学講座係までお知らせください。

はじめて習う ハンゲル講座

期 間: 12月13日～3月21日
曜 日: 毎週木曜日(ただし、12月
27日、1月3日・24日は休講)
時 間: 18:30～20:00
対 象: はじめてハンゲルを習う方
講 師: 金順玉さん
(横浜コリアン文化研究会代表、フェリス
女学院大学オープンカレッジ講師)

ワールドカップまであと7ヶ月となります
ます交流する機会が増えてきた韓国。

この機会にハンゲルを学んでみませんか。今回の講座では、全くの初心者の方が韓国旅行の際(少しでも)ハンゲルで交流ができるようになることを目標に、文化事情も織り交ぜながら学習をしていきます。

コリア文化講座のご案内

*来年2月から3月に、3回シリーズでコリア文化講座を予定しています。
「楽」「学」「食」のプログラムを予定しておりますが、皆様からのご意見・ご提案も募集しています。
11月30日までにFAX(045-896-2945)又はEメール(kikaku@k-i-a.or.jp)でコリア文化講座係までご連絡ください。

海外からの技術研修生・留学生との国際交流の1日

神奈川県国際研修センター センター・デーのお知らせ

神奈川県が受け入れている海外からの技術研修生と、県内で学ぶ留学生約50名が生活する神奈川県国際研修センターの、年に一度のお祭りです。相鉄線二俣川駅、運転免許試験場のすぐそばです。お待ちしております

料理教室(餃子&チヂミ)
(10:00～12:30)

事前申し込み制、材料費500円
定員になり次第締め切ります。

ミニ・バザー(12:00～)

パフォーマンスと体験
(13:00～14:30)

タイの踊りを一緒に!
出演: 港南国際交流ラウンジ・タイ舞踊グループ。簡単な振付も教えてもらいます。

トンガとカンボジアの歌と踊り、インドネシアの楽器演奏(アンクルン)

タイ式マッサージ&中国式マッサージ教室(14:30～16:00)
ライセンスを持つタイの留学生から教わります。中国の留学生による「疲れ目」マッサージ指導もあり。
事前申し込み制

ミニ・レクチャー

- ①カンボジア・アンコール遺跡で新発見!(14:30～15:30)
県立歴史博物館で研修中のカンボジアの考古学者、ソム・ピンツットさんのお話をどうぞ。
- ②モンゴルの住まいと文化(15:30～16:30)
遊牧民の住まいについて、モンゴル国立技術大学建築学科講師、プレ・エルデネさんがお話しします。

モンゴルの占い(15:00以降随時)

研修生・留学生の出身国紹介展示とおしゃべりコーナー

日時 11月18日(日)
10:00～17:00

入 場 無料(料理教室のみ材料費)
会 場 神奈川県国際研修センター
相鉄線二俣川駅下車、北口よりバス「運転免許試験場循環」で、「中尾町」下車。
(車でのご来場はご遠慮ください。)
お問い合わせ
料理教室/マッサージ教室お申し込み
TEL 045-366-0157
FAX 045-366-0164
Eメール kpitc@hamakko.or.jp
神奈川県国際研修センターまでどうぞ!

